

第5回

日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会セミナー 報告書

体育・スポーツ・健康科学分野における
女性研究者の活躍推進に向けて

日時：2025年3月14日（金）13:00～16:00

会場：奈良女子大学 文学系N棟101

方式：対面中心（ZOOM配信のハイブリッド形式）

主催：日本体育・スポーツ・健康学会 若手研究者委員会

共催：日本体育・スポーツ・健康学会 ダイバーシティ委員会

後援：奈良女子大学

1. 開催趣旨

ジェンダー平等の実現が希求されるようになって久しい。しかし、世界経済フォーラムの発表するジェンダー・ギャップ指数ランキングにおいて、日本の順位は 146 か国中 118 位 (2024 年) となっており、極めて低い位置にある。この問題は、学術分野においても例外ではなく、総務省によれば日本の研究者数は、男性が 82 万 600 人 (81.7%)、女性が 18 万 3,300 人 (18.3%) となっており、女性研究者の比率は極めて低い状況にある (2023 年時点)。さらに、日本体育・スポーツ・健康学会の会員 (名誉会員を除く) は、男性 4,085 人 (77.2%)、女性 1,206 人 (22.8%) であり、体育・スポーツ・健康科学分野においても、女性研究者の比率が低いことが見てとれる (2024 年 4 月時点)。

他方、本学会の政策検討・諮問委員会「若手研究者育成」小委員会の調査報告 (2015 年) では、研究テーマについてジェンダーによる差が存在していることから、女性研究者の参画によって、より幅広い研究テーマや問題領域をカバーできるようになることが指摘されている。今後の体育・スポーツ・健康科学分野の研究における多様性の確保やイノベーションの創出のためにも、女性研究者の参画は喫緊の課題である。しかし、同調査における女性研究者の悩みや不安・不満についての回答からは、女性研究者をめぐる環境の厳しさが指摘されており、女性研究者の参画に関する障壁の存在が推察される。

以上のような状況に鑑み、本セミナーでは、体育・スポーツ・健康科学分野における女性研究者の活躍推進について取り上げることとした。また、その際、本セミナーが強調したいことは、このような問題を女性研究者個人の問題として矮小化すべきではないということである。女性研究者が増加しない理由を本学会、ひいては日本の学术界や体育・スポーツ・健康分野における構造的な問題として捉える視点が必要なのである。

本セミナーでは、体育・スポーツ・健康科学分野における女性研究者をめぐる現状と課題を共有し、学会としてのアクションについて「ジェンダー主流化」の視点から検討したい。それと同時に、本分野において活躍する女性研究者のキャリア形成についてご講演いただき、参加者が自身のキャリアについて将来展望を深めたり、指導教員としての気づきを得たりするなど、研究者同士が交流する機会としたい。

シンポジスト：高峰 修 (明治大学/本学会ダイバーシティ委員会委員長)

足立 名津美 (京都先端科学大学)

木伏 紅緒 (神戸大学)

宮尾 夏姫 (奈良教育大学)

指定討論者：來田 享子 (中京大学/本学会会長)

コーディネーター：大高 千明 (奈良女子大学/本学会若手研究者委員会副委員長)

黒須 朱莉 (びわこ成蹊スポーツ大学/本学会若手研究者委員会委員)

2. 第一部：各演者の報告等

シンポジストとして4名の先生にご講演いただいた。まず、高峰修先生（体育社会学、体育・スポーツ政策）からは、本学会におけるダイバーシティに関する制度や施策（選挙規定におけるアファーマティブアクションの導入、学会大会での具体的支援やライフイベント支援制度等）、本学会員対象のアンケートとGEAHSS「第2回人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」の結果の分析、そして今後の課題や継続的な実践内容についてご報告いただいた。

次に、木伏紅緒先生（バイオメカニクス）、足立名津美先生（体育経営管理）、宮尾夏姫先生（体育科教育学）の3名の先生方からは、女性研究者の「活躍」の捉え方、ご自身のキャリア形成、現在の研究環境、キャリアと私生活の両立、そしてご経験に基づく具体的な課題等を中心にご報告いただいた。例えば、木伏先生からは、研究継続と結婚・妊活・妊娠に関わる制度的、環境的課題について、足立先生からは、育児休業期間中の職場における制度整備に関する取り組みについて、宮尾先生からは、相対的な体力的制約、研究と育児の両立、職場でのコミュニケーションの問題、女性特有の役割期待や構造的な問題等の女性研究者が抱える課題が挙げられた。

以上のご報告を受けて、指定討論者の來田享子先生（体育史）からは、研究活動における制度的課題の提起（事実婚と別姓制度に対する学術団体としての意思表示の検討）、女性研究者のロールモデルの問題（より多様で現実的な研究者像提示の必要性）、支援制度の課題と改善（女性研究者に対する支援がもたらす両義的な影響、過剰な役割負担によるドロップアウトの問題の検討）、組織的な取り組みの方向性（学会としての支援施策の実効性の検証と財源配分の見直し、日本スポーツ体育健康科学学術連合との連携強化）が示された。その他、女性研究者向けの新たな賞の設立の検討、デジタル技術を活用した身体的実践の研究推進、女性/育児/介護等の研究活動上の課題となる属性やライフステージごとの研究者ネットワークの在り方についての継続的な議論の必要性なども挙げられた。

3. 第一部：パネルディスカッション／第二部：グループディスカッション

パネルディスカッションでは、学会としてのアクションに繋げていくために、女性研究者の活躍の推進を妨げている障壁（ライフイベントによる研究時間の制約、選択的夫婦別姓制度検討の必要性、育児との両立における時間確保の困難さ、ベビーシッター費用の自己負担など）と、それらを取り除く／乗り越えていくための方策等（研究支援制度や海外研究費用補助などの制度の活用、育児支援のための時間確保に関する制度の整備、意思決定機関における女性の参画比率の向上など）について活発な議論が交わされた。



写真) パネルディスカッションの様子
(左から、高峰先生、木伏先生、足立先生、宮尾先生、來田先生)

第二部では、対面とオンラインにてグループディスカッションが行われ、活発な意見交換がなされた。閉会の際には、辻委員長から挨拶があり、国外事例の視点から、意思決定層における女性割合の重要性や人口減少社会における男女共同参画の必要性について言及があった。



写真) グループディスカッションの様子

4. 集合写真



写真) 対面参加者および第2部オンライン参加者 (平塚委員撮影)



写真) 対面参加者および第2部オンライン参加者 (來田会長撮影)

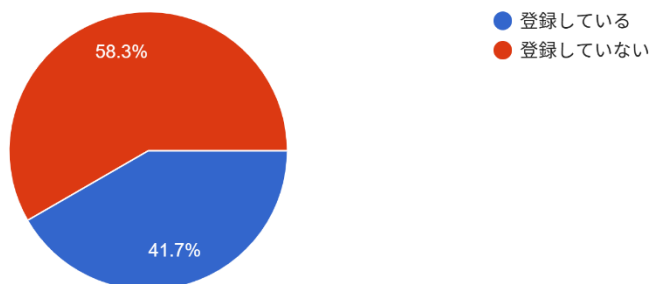
本写真は、事前に承諾をいただいた上で撮影・掲載しています。

対面参加者 23名 (一般 14名 + 演者・委員 9名)

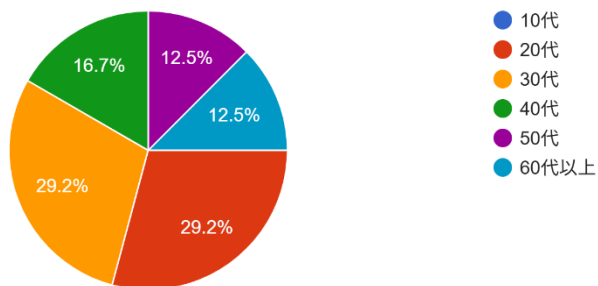
オンライン 40名 (一般 37名 + 委員 3名) 合計 63名

5. 第5回 日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会セミナー参加者アンケートの結果

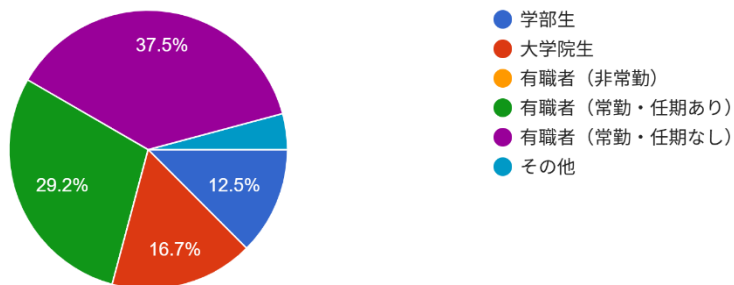
○若手の会メーリングリストへの登録の有無を教えてください。[24件の回答]



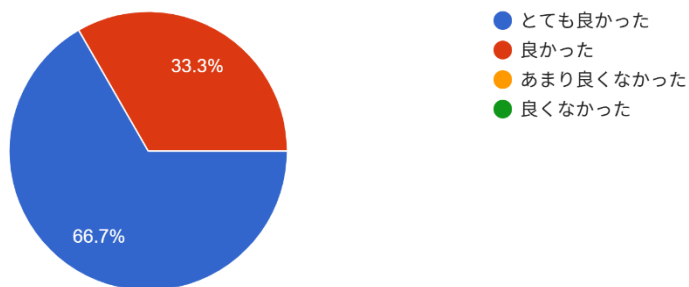
○あなたの年齢(年代)を教えてください。[24件の回答]



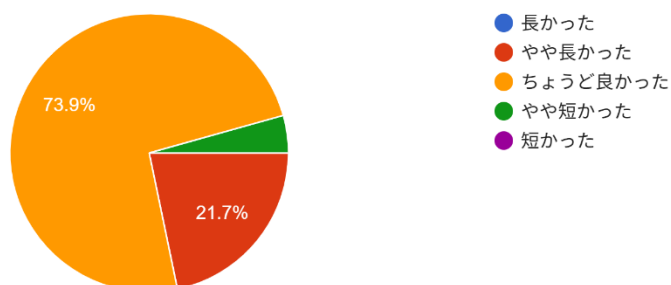
○あなたのお立場(雇用形態)を教えてください。[24件の回答]



○本セミナー全体の内容はいかがでしたか？[24件の回答]



○本セミナー全体の時間はいかがでしたか？[23件の回答]



○次回以降の「若手の会」の参加形式はどのような形式を希望しますか。[23件の回答]



○本セミナーに関するご意見・ご感想をご自由にお書きください。[18件の回答]※原文まま

- ・ 女性研究者の方々の実際の経験やリアルな声をお聞きすることができて、すごく参考になりました。本当に貴重な機会だったと思います。ありがとうございました。
- ・ 参加する前はもっと固いイメージでしたが、対面で参加してみると全くそのようなことはありませんでした。学術団体ですのである程度の固さがあるのも当然と思いますが、告知内容や方法によっては柔らかさを演出でき、参加しやすくなりそうだと思います。
- ・ 業務の都合上、一部のみの参加となりましたが、とても貴重なご講演を拝聴できたと思います。どうしてもこれまでの研究者は実績のみに焦点を当てられて評価されておりますが、これからの時代は、女性も男性も、家庭を大切にしながら研究も充実させた人が讃えられるような風潮になってほしいと心から思いました。
- ・ 若手研究者、女性研究者のおかれている立場や人生に対する不安を知る事ができました。すべて自己責任と片付けるのではなく、環境整備や研究以外のサポートも必要ではないかと思いました。
- ・ 途中で御手洗休憩を挟んでいただけるとありがたいです。
- ・ 各シンポジストの先生方から非常に参考になるご報告をいただけたことに加えて、声高に叫ばれ用いられてきた「活躍」という言葉への違和感と問題提起が見事に言語化されていたと感じた。また、対面だけでなくオンラインでもグループディスカッションを

行っていただけたので、シンポジスト以外の方々のご自身の経験に即した）生の声を聞くことができ非常に参考になった。

- ・ 大変貴重な機会をありがとうございました。どうしても女性の人数比が少なくなりがちな分野ですので、今回のように女性大学教員の先輩方のお話を聞ける機会はとてありがたく、色々と考えるきっかけになりました。
- ・ 女性研究者の働く環境について、考える契機となりました。他方、登壇した3名がみな結婚、出産の経験者で、その立場からの話でした。女性特有のイベントが研究の中断や意欲に関わることは理解できますが、女性でも結婚、出産を選択しないで研究活動を推進する人もいます。そのような人は、研究活動の推進に支障はないのか、あるとすればどのような支障で今後どのような対策が必要かも考える必要もあるように思いました。
- ・ 女性研究者そして大学の女性教員として、共感できることが沢山あり、共有できたことが良かったと思います。それぞれ、環境は違えど、ライフイベントは同じような年齢で迎えるので、若手は良きロールモデルとなったと思いますし、年配者はこれからどう支援できるかを考えることとなりました。
- ・ 見方になってくれる先生などいないので、皆さんすごいなあと感じました。
- ・ 年齢は若手ではありませんが、研究者としては新人であることと、女性であるため、今回参加させていただきました。途中まで（来田先生ご登場前）しか拝聴できていないのですが、感想として、「女性の方が女性に厳しい」という言葉を思い出したのが正直なところです。頑張った先生方が、後輩に「私もこんなに大変だったんだから、あなたはまだ頑張れる」という様なことを”善意”で言わないようなサポートが必要だなと感じました。
- ・ 中堅の女性研究者がそれぞれ辿ってきたキャリア事例は、当事者ならではの話でリアリティがあった。できれば、事例に共通する項目を整理しながら、どのような解決への戦略が考えられるのかをもう少し深く議論できれば良かったかなと思う。
- ・ 興味深いセミナーを開催いただき、ありがとうございました。若手女性研究者3名の方のキャリアパスを知ることができ、非常に良かったです。皆さんご結婚され、お子さんもいらっしゃるということで、ご家族のお話も聞いてみたいと思いました。
- ・ 女性の問題だけでなく、男性も含めた子育て世代に共通する問題が取り上げられていて大変勉強になった
- ・ 今回のような女性参画のセミナーに男性ももっと参加していただき、両者の意見を合わせて議論できたらと思いました。内容は大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ セミナー開催の方、ありがとうございました。女性としてお話を聞いていて、自身のキャリアと向き合っている先生方の姿にとて魅了されました。
- ・ 結婚、子育てを考えていらっしゃる方や真っ最中の方の参考になるとともに、それぞ

れの事情に応じた組織や社会の理解や規約の見直しが必要であり、まだ十分でないところでは、その早急な対応が必要であると感じました。

- これから研究者としての道を歩こうとしている自分にとって、学会の取り組みや先輩方の経験談を取り扱っていただいた今回のセミナーは、とても有意義な時間となりました。研究者として歩む道は一通りではなく何通りもあること、また成功とは何を意味するのか、など、自分にとって大切なことを改めて考える機会になりました。ありがとうございました。

○次回以降の「若手の会」主催セミナーで取り上げて欲しいテーマがあれば教えて下さい。

[9件の回答]

- 非常勤の経歴が長い先生や、長期の非常勤や任期付き職から、任期なしの職を獲得した先生などドロップアウト確率が高いと思われる先生方の転機となるような時間になればいいなと思いました。
- すごく大まかなのですが、今回、会の中でもでてきていたように、性別のくくりではなく、子育てしながら…介護しながら…などの暮らしの中の役割のようなものに焦点を当てたテーマがあると、色々な人の参考になるのではないかと思います。それから、学部生や院生が実際に感じている不安や困難を相談できるような、相談会のような機会もあつたらいいなと思います。
- 看護系等女性研究者が多数を占める学会は、役員等をやらざるを得ない状況と聞いておりますので、参考になるかわかりませんが、当会にお呼びしてお話をおききする事はいかがでしょうか。
- 今回と同じ内容で、
 - (ハラスメントが起こる構造を考慮に入れた) ハラスメント対策, 研究・教育に従事する中でアーリーキャリア研究者が抱える問題
 - 上記に関連し、女性研究者の多様な研究活動推進のスタイルと課題について。
 - 職場の人間関係
 - “研究者”の方のこだわりポイントや、「ここがヘンだよ研究者」みたいな、一般社会と研究者の隔たりを若い方が認識する機会があるといいのでは?と思いました。
- 若手の会の役割としては若手研究者同士のコミュニティを広げるといった側面もあると思うので、異分野の研究者同士が交流できるような企画があると良いと思う。

以上